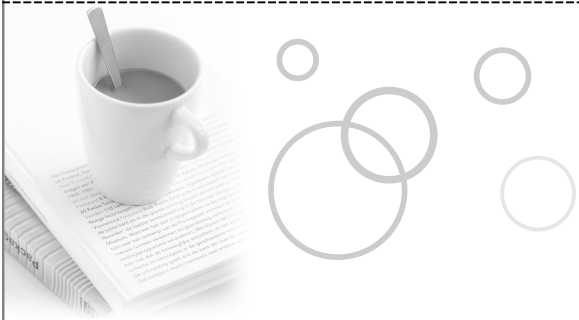




保育園への道

会員

池田 清貴< 53期 >

1歳になる娘がこの春から保育園に通い始めた。僕の仕事は毎朝娘を保育園まで連れて行くことだ。娘を自転車に乗せて保育園へ疾走するだけのことだが、毎日なかなか楽しい思いをしている。

娘は、自宅を出る時に母親とバイバイする。今生の別れかと思うほどの泣きっぷりを見せるが、角を曲がれば泣き止む。僕が「今日も保育園でいっぱい遊ぼうねえ」と言うと、娘が「ん」と答える。まだ話せないが、なんとなくリアクションはできるのだ。「何して遊ぶの？ ラップ吹くの？」「ん」。「ミニカーで遊ぶの？」「ん」。「あー君と遊ぶの？」「ん」。という具合に、傍から見れば限りなく一方通行に近い会話を楽しむ。

それから、娘の好きな歌をうたう。NHK教育の「クイント」のテーマソングだ。

これを聞くと娘は、足をびよんびよんさせてはしゃぐ。「あわてんぼうの歌」などを歌っても体を揺らす。次に、僕自身が好きな曲も僕のために歌う。学生時代に聞いた思い出のビートルズの曲などだ。娘に聞かせているふりをして歌えば、怪しい目で見られることもなく、むしろ微笑ましく見守ってもらえる。ちなみに、娘を連れていると、女子学生の集団から「きゃー、かわいい」とチャホヤされることがある。なんだか自分もチャホヤされているようで気持ちがいい。ご年配の女性からは「まあ、お父さん

が保育園に連れて行くなんて偉いわねー」的視線を投げかけられ（あくまで想像）、なんだか自分でも偉い気がしてくる。このオヤジ的かつマザコン的の自意識過剰ぶりに、妻からは「だから男はダメなのよ」と言われるかもしれないが、実際世間は子育てパパにはとかく甘い。先日も保育園で「お父さん、毎朝ご苦労様ですねえ。ベストファーザー賞を用意しておきますよ」というお言葉を頂戴して有頂天になった。でも、毎日1人で送りも迎えもしているお

母さん方にはベストマザー賞はなさそうで、なんだか申し訳ない気もする。

保育園に着くと、保育士の先生から子どもの様子についていろいろと質問を受ける。これがなかなか大変だ。子どもの便の様子についての質問なんか、とても難しい。

「便の硬さはどうでしたか。マッシュポテトぐらい？ ハンバーグの種ぐらい？」

「えーと…（どちらが硬いのだ？）」

娘は、僕と別れるときに再度泣くことがある。父親冥利につきるが、引き離すのは正直つらい。加えて、抱っこしている僕のワイシャツは娘の涙と鼻水にまみれる。ふと気が付くと、泥で汚れた娘のサンダルが僕のズボンをゴンゴン蹴っている…。

それから駅に向かう。ここのところの朝の日課だ。

